

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

胃癌の治療

[2016年12月]

胃癌の治療は、以前に書いた食道癌の治療と似ています。早期発見が重要なのも食道癌を含む他の癌と同様です。

胃癌の治療は早く見つかった順に、①内視鏡下での切除、②外科的な開腹手術、③抗癌剤等による治療、の主に3つが行われます。①の治療では、胃カメラの先から電気メスのような器具を出して病変を切除し回収するので、皮膚にメスを入れることはありません。治療の安全性は高く、治療効果も転移がなければ②と同様です。この分野では日本は世界をリードして来ました。ただしこの治療を受けられるのは、ごく早期の胃癌に限られます。検診等で無症状のうちに見つかった癌でないと、この治療の対象になりにくいのです。

少し進行した胃癌に対しては、従来通り②の外科治療を選択します。この分野も諸外国に比べると日本の方が成績良好です。

③の抗癌剤治療などは、遠隔転移のある場合などに行われます。従来に比べると抗癌剤での治療成績は随分向上しました。

胃癌治療にとって大切なのは早期発見で、検診が有効です。しかし近い将来、日本人の胃からピロリ菌がいなくなると、胃癌がほとんどできなくなり、検診の必要もなくなると期待しています。